

令和4年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和5年2月22日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
主体的・対話的で深い学びにより、確かな学力と健やかな体を育成する	学ぶ意欲の向上	子どもの「できる・わかる」を引き出すとともに、問題解決的な学習を実践する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>意味調べやねらいをもった正確な音読、「意味が分かって読めること」を大切にする授業への転換が図られつつある。</li> <li>授業研究の教科を広げ過ぎたため、問題解決的な学習の授業研究に植田スタンダードを十分活用できなかった。</li> <li>体育の授業だけでなく教師がともに運動場へ出て外遊びを励行し、多様な動きを経験させた。</li> <li>体力テストでは、全国平均以上の項目が、全学年60項目中、令和3年度16項目から令和4年度18項目に増え、成果が出ている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席者がリモート授業で授業内容や友だちの様子などを知ることができることがわかった。今後もタブレット端末を有効活用し、より一層の教育効果を上げてもらいたい。</li> <li>学習発表会では、問題解決学習の成果が表れていた。</li> <li>体育では子どもたちが自主的に動いていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決的な学習の授業改善に向けて、国語と算数の教科を中心にタブレット端末活用を位置付けよう一段深い学びを目指す「植田スタンダードⅡ」を考案する。</li> <li>文意をとらえる読む力を育てるため、漢字学習と語彙の拡充を結び付ける。</li> <li>★子どもたちの学力が向上するような授業づくりをめざす。</li> </ul>
	子どもの体力の充実	体育の授業や体育的行事を重視し、体育的な環境を整え、すすんで運動に親しむ子を育成する。	A					
互いの立場を理解し、温かな気持ちで関わり合える集団づくりに取り組む	孤立する児童のいない温かな学級、集団づくり	子ども同士が、お互いのよさを認め合う活動やグループ活動など、人間関係づくりを目的とした実践に計画的に取り組む。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いなほトーク」や考え議論する道徳を全学級で実施した。相手の顔を見て話す、聞くことを徹底指導した。</li> <li>子どもたちが自主的な挨拶運動として校内で挨拶をする場面が多くみられるようになった。</li> <li>「道徳ノート」を引き続き全学年で使用した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの様子から、和やかでよい人間関係を築くことができていると感じた。</li> <li>お互いの話をよく聞きあっている。</li> <li>友達と一緒に学び活動する子どもたちの目がきらきらしていて学ぶ楽しさを見た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いなほトーク」や道徳の授業では教師が互いに授業を見合い、共感的理解のもと、より関わり合いを深める方法を学ぶ。</li> <li>「道徳ノート」を一層活用する研修を行う。</li> <li>「自尊心感情」や「自己肯定感」を育むための授業づくりや行事を計画する。</li> <li>★教師と児童の人間関係の構築がとても重要。今後も児童とのコミュニケーションを大切に子どもと接していく。</li> </ul>
	自らあいさつができる子の育成	児童が自分をとりまくさまざまな人々に、自分からあいさつができるようにする。	A					
家庭や地域との連携を密にし、安全安心で開かれた学校運営を推進する	地域ぐるみの教育システムの構築	地域教育ボランティアや保護者、地域住民、地元企業等を活用した授業や体験活動を実践する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地教ポ「植田いなほ会」登録者100名超。</li> <li>ほぼ全ての学年で、地域教育ボランティアと関わる授業を展開し、環境教育やキャリア教育他に生かした。</li> <li>地震、火災、津波、不審者の避難訓練実施。</li> <li>専門家を講師に招き、食アレ対応や心肺蘇生法についての現研実施。</li> <li>付添下校。朝の立番実施。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の呼びかけで多くの子どもたちが校区防災訓練に参加したことは大変良い。より一層地域と協力して防災に関する教育を行ってほしい。</li> <li>植田は自然や人材に恵まれた地域だと思う。それが教育活動に生かされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「安全教育の手引き」をしっかりと活用し、学校の危機管理を高め、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように努める。</li> <li>★地域教育力をさらに活用していくとともに、新たな人材を発掘していく。</li> </ul>
	非常災害時や学校生活における判断力・行動力の育成	「安全教育の手引き」を活用し、緊急時の対応や生活安全についての理解を深め、自らのいのちを守ったり、けがを防止したりするための適切な判断力・行動力を養う。	B					
教育公務員としての意識を高め、組織人として学校を支える教師集団をみざす	若手教員の授業力向上	「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、組織的、計画的に授業改善に取り組む。視点を明確にした研究協議会を積み重ねる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器を活用し、意見交流をタブレット端末で行ったり、視覚的支援をしたりと、児童がわかりやすい授業を目指した。</li> <li>行事や教材研究について、ミドルリーダーが若手の相談にのる学校文化が醸成されている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業モデル案は問題解決的な学習になっているのか。</li> <li>タブレット端末について最新の情報を収集し、よりよい活用をしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末を活用し、児童相互が関わり合うより深い学びをみざす授業を研究する。</li> <li>★情報機器を活用した授業モデル案を検討する。新しい授業スタイルを追求するとともに従来の授業スタイルのよいところを若手に伝えていく。</li> </ul>
	学び合い、助け合う人間関係づくり	初任者や経験の浅い若い教員をはじめ、一部の教員に過重な負担がかかることがないように、適切な措置を実施する。	B					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】